

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201344		
法人名	有限会社 しらさぎ苑		
事業所名	グループホーム しらさぎ苑A棟		
所在地	石巻市須江字しらさぎ台3丁目21-3		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-miyagi.info/miyagi/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	宮城県仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成22年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が日々自分らしく暮らしていける、また、有意義に過ごせるように支援している。また、声を出すことを誤嚥の予防、肺疾患の予防と考え午前の時間を健康体操、レク、カラオケの時間に実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にある平屋建て2ユニットのグループホームで、敷地が広く中庭やウッドデッキが設けられている。また室内も広々として清潔で、快適な居住環境となっている。「こころ豊かに、楽しく、いきいきと」を理念として、職員同士のチームワークもよく、家庭的な雰囲気の中、入居者一人ひとりが楽しく過ごせるよう努めており、外出や行事なども盛んに行われている。最近設立された町内会の会合や行事に積極的に参加し、ホームの避難訓練にも地域の消防団が参加するなど、地域住民との交流も多くみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームしらさぎ苑運営規程の運営方針に掲げ、しらさぎ苑独自の理念として実践している。常に、職員が、理念をいつも共有できるようにリビングの見やすい壁に掲げサービスに取り入れている。	ホーム独自の理念を有し、職員が理解・共有した上で、日々の実践に生かされているが、地域との関係性は謳われていない。	地域密着型サービスとして、地域生活の継続等を謳った理念であることが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新興住宅地であるが、散歩時に擦違う時に近隣方とあいさつをされたり、お庭の花がきれいなお家に訪問させて戴いたりしている。行政連絡会があるので、そのなかで行われる、環境整備などに進んで参加し地域の方と交流している。	H22に町内会が設立されると同時に加入。町内会の会合や夏祭りにも参加した。町内会長には運営推進員として協力をもらっている。また近隣の中学生ボランティア等の受け入れを行っており、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの行事等が合った場合は、地域全家庭に行事に関するお知らせを郵便局のメール便を利用し郵送してホームに足を運んでいただけるようにしている。一緒に行事を楽しんで頂きながら認知症の方の理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場での意見は改善されべきところは、職員会議で話し合い改善してサービスの向上に努めている、また、良い評価を得られたところは、継続している。	包括支援の職員、住民、家族の外、入居者本人も参加し、2ヶ月に一度運営推進会議が開催されている。活動状況や日常的な管理運営、評価結果等が双方向的に話し合われ、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苑内での疑問や質問について市町村担当者に直接相談に出向いてサービスに取り入れている。	書類の作成方法等、疑問や問題が発生した際は、市の担当者を訪問する等、積極的に働きかけをしている。また訪問できなくても電話で連絡する等、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束について理解し取り組んでいる。しかし、安全面に於いて危険と判断されるケースについては、家族に同意を得て夜間等は4点柵を行っている。玄関等の施錠については、夜間以外は、解放している。	勉強会等で、身体拘束に関する職員の理解と意識の共有を行っている。また日中は施錠していない。入居者の外出傾向も把握できており、地域住民の理解も得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員会議等においても注意をしている、また、新聞等でそのようなケースが有ったときにも全職員に対して注意を払い、防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要と思われるケースに対しては家族に対し制度について説明をしている。それに伴い協力出来るところホーム全体で協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明書により説明し家族、入居者本人の不安や、疑問を十分受け入れ話し合い同意得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内にも苦情の担当職員を配置し入居者の意見、不安を充分受け止め、職員会議の場で管理者、職員間で話し合いを持ちサービスに反映している。	入居者からは日常的に、家族からは運営推進会議や来訪時に、意見や要望を聞く機会を設けている。これらの意見をミーティング等で検討し、運営に反映させている。外部の相談機関については、契約時に説明している他、玄関にも掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑内に苦情処理の係を設け家族からの苦情に対応している。また3ヶ月に一度の運営推進会議の場において第三者からの意見を戴き職員会議で職員と話し合いサービスに反映している。	ミーティングや日常の勤務の中で、職員の意見を聞く機会を設けている。また、運営推進会議にも参加し、出された意見を運営に反映させ、サービス向上に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の勤務状況を把握しできる限りの範囲で働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度のペースで必要なケア、疾患に対して勉強会を開催している。また、行政、その他の機関で開催する研修会に出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、必要に応じてホームに訪問し疑問や悩みを話し合いサービスに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を含め職員と方向性について話し合い本人の趣味や得意な事から支援する中でコミュニケーションを計り会話の中からや行動から本人の不安や要望を探り支援に取り入れ安心した生活を送れる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定した段階からこまめに連絡を取り話し合いを行っている。入所してから面会時等時に入居者本人の状況をお話し家族が安心できる拝領を心掛けている。要望等についてもその都度話し合い安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族より相談を受けた際は、充分話し合いをし共に解決策を考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と生活の場として家族的に接する中で本人の求めているものや変化を探り支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などの折長時間ではないが入居者と家族の間に入り施設内での出来事や入所前の本人の生活などを話しコミュニケーションをとるようこころがけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ本人の馴染みのものを入所時持参していただいたり、写真を持ち込みをして頂き支援している。	日常の中から入居者のなじみの関係の把握に努め、希望に応じて入居前の知人に手紙を送ったり、行きつけの床屋を利用できるようにする等、関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で申し送りを行い、入居者間の把握を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的に関わりの必要な家族、入居者については、他のサービス事業者とも協力仕合い関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての入居者様について把握し希望や意向に関して職員間で話し合いできる範囲の中で対応している	本人の希望を気軽に伝えられるような雰囲気づくりを心掛けており、また家族からの意向も確認した上で本人本位の対応をしている。また、職員が仲介することで、入居者同士のスムーズな関係作りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用しサービス利用の経過や生活歴等の把握をしていたが、情報の収集に時間がかかることからアセスメントを宮城県版に変更し行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に観察を行い現状の変化については職員間で申し送りを行い総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	マネジメントの様式としてセンター方式を利用して用紙記入時は、家族の方にも参加して頂き介護計画の作成に反映させてきたが、家族の協力を頂けない家族もいる為介護計画の作成に時間を要する事もあり様式を宮城県版にし進めている	職員全員で話し合い、個別・具体的な介護計画を作成している。入居者及び家族の意向を把握しながら、主治医等の意見も含め計画に反映している。毎月の意向確認を行い、必要に応じた計画の変更等、3か月毎に見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアケース記録に記載し特に問題になる部分については別紙を用意し記録し介護計画の見直しに反映させている。職員間においても記録するだけでなく申し送りを行い実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族かの要望に対しては当施設で出来る範囲のなかで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしの中で民生員、地域の理容所等を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な受診については、施設で対応している。受診後に家族に状況説明をしている。また、主治医の往診が月1回定期的に行われている。	かかりつけの医療機関と連携を図りつつ、本人・家族が希望する通院ができるように支援している。また家族による通院の際でも、受診結果の報告を受けて記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が、看護師の資格を有しているの で、その都度状況の変化に対して相談、助言を行い適切な受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、退院までの期間状態の把握と本人精神的ケア、家族との情報交換を兼ね管理者、ケアマネ、チーフが面会に伺い、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合早期に家族、主治医との話し合いを持ち、その後職員との家族の意向や主治医の考え方について話し合い方針を共有している。	重度化や終末期に関して、個別の対応は行われているが、ホームとしての対応方針の統一及び意思確認書等の作成が行われていない。	重度化及び終末期のあり方については、対応方針が明示されるとともに、意思確認書等文書による確認が求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時をマニュアル化している。また職員会議の場でも勉強会を行い対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、年2回の避難訓練を実地しており、最低1回は消防署の職員立合いのもと実施している。	マニュアルに基づいて避難訓練(夜間想定含む)を年2回実施しており、地域住民(消防団)も参加している。また消防設備の点検および立会い、非常食料や備品の保管も適切に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に対してプライバシー、記録の取り扱いについては、常に指導し入居者様の尊厳を損ねわないケアを心掛けている。	職員は本人を尊重した呼び方、言葉掛けをしており、本人のペースで生活できるよう十分な配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに対しては、納得いくまでお話を聞き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通常の日課については、入居者様の個人希望に添えるように特に職員の業務には、時間ごとの業務を決めずにその日ごとのケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの入居者様は、施設内に訪問していただき散髪を行っているが、中には本人から希望を訴える方もいらっしゃるため、その場合は対応している。また、月2回美容の日を設け外部の美容店に赴きシャンプー等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、時折、野菜の皮を剥いていただく程度のお手伝いをお願いするがほとんどがその日の気分でお断りされることが多い、かたづけに関しては、声かけにて朝食後は行っている。	献立は入居者の希望がかなうよう工夫しており、栄養面では月1回栄養士(職員)が、年1回市の栄養士がチェックしている。また食事は職員が同じものを食べるなど、和やかな雰囲気、サポートしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々に合わせた食事の量の提供している。また、メニューについても行政の栄養士様に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、うがい等を行っている。また、定期的に居宅管理指導のため、歯科医と衛生士が口腔の清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個人により対応は違うが、排泄の状況を観察し個人個人合った対応をしている。	排泄チェック表を用いて、入居者一人ひとりのパターンを把握し、適切な誘導を行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの方が便秘症で有るので食事の提供時も繊維質の食品を多く取り入れている。特に便秘をされる方にはドリンクヨーグルト等を提供するなどして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	すでに、職員が決めた入浴日が入居者様の中で入浴の日や時間が定着している為その日が入浴のタイミングとなっている。	入居者の希望や習慣に応じて、時間や回数等柔軟に対応している。入浴拒否がある方には、言葉掛けやタイミング等誘導の仕方を工夫し、入浴しやすい雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間に合わせてケアしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様個々の服薬内容について把握しており服薬による症状の観察を常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の生活歴や嗜好を踏まえた過ごし方を考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの要望や本人からの要望があった場合対応している。	買い物や散髪等なじみの店や場所に出掛けられるよう支援している。歩行困難な方にも、車イスやリフト車を使用して積極的に戸外で出られるよう配慮している。また特別な外出支援にも柔軟な対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことでトラブルや事故に繋がる恐れのある方以外には、所持して載っている。買い物の希望があった場合は本人と外出し買い物に出かけなどの対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自身から電話を掛けることは無いが、本人宛に来た電話に対しては対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、入居者様に配慮した工夫をしている。	照明や音、温度・湿度等、適切に管理されており、居心地の良い環境が整えられている。また全体的に広めの空間で、季節感を取り入れた装飾が配されており、ゆったりと過ごせるような雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し空間作りに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と話し合い本人の使い慣れた家具や小物を持ち込み出来るだけ不安を軽減できるように工夫している。	家具等のなじみのものを持ち込んで、以前の暮らしに近い環境になるよう家族に働きかけをしている。荷物の少ない方には、飾り付け等で工夫し、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレには、手摺りを設置してある。また、廊下も広く車椅子でもすれ違いが可能な広さを確保してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201344		
法人名	有限会社 しらさぎ苑		
事業所名	グループホーム しらさぎ苑B棟		
所在地	石巻市須江字しらさぎ第3丁目21-3		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-miyagi.info/miyagi/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	宮城県仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成22年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が日々自分らしく暮らしていける、また、有意義に過ごせるように支援している。また、声を出すことを誤嚥の予防、肺疾患の予防と考え午前の時間を健康体操、レク、カラオケの時間に実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にある平屋建て2ユニットのグループホームで、敷地が広く中庭やウッドデッキが設けられている。また室内も広々として清潔で、快適な居住環境となっている。「こころ豊かに、楽しく、いきいきと」を理念として、職員同士のチームワークもよく、家庭的な雰囲気の中、入居者一人ひとりが楽しく過ごせるよう努めており、外出や行事なども盛んに行われている。
最近設立された町内会の会合や行事に積極的に参加し、ホームの避難訓練にも地域の消防団が参加するなど、地域住民との交流も多くみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームしらさぎ苑運営規程の運営方針に掲げ、しらさぎ苑独自の理念として実践している。常に、職員が、理念をいつも共有できるようにリビングの見やすい壁に掲げサービスに取り入れている。	ホーム独自の理念を有し、職員が理解・共有した上で、日々の実践に生かされているが、地域との関係性は謳われていない。	地域密着型サービスとして、地域生活の継続等を謳った理念であることが求められる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新興住宅地であるが、散歩時に擦違う時に近隣方とあいさつをされたり、お庭の花がきれいなお家に訪問させて戴いたりしている。行政連絡会があるので、そのなかで行われる、環境整備などに進んで参加し地域の方と交流している。	H22に町内会が設立されると同時に加入。町内会の会合や夏祭りにも参加した。町内会長には運営推進員として協力をもらっている。また近隣の中学生ボランティア等の受け入れを行っており、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの行事等が合った場合は、地域全家庭に行事に関するお知らせを郵便局のメール便を利用し郵送してホームに足を運んでいただけるようにしている。一緒に行事を楽しんで頂きながら認知症の方の理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場での意見は改善されべきところは、職員会議で話し合い改善してサービスの向上に努めている、また、良い評価を得られたところは、継続している。	包括支援員職員、住民、家族の外、入居者本人も参加し、2ヶ月に一度運営推進会議が開催されている。活動状況や日常的な管理運営、評価結果等が双方向的に話し合われ、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苑内での疑問や質問について市町村担当者に直接相談に出向いてサービスに取り入れている。	書類の作成方法等、疑問や問題が発生した際は、市の担当者を訪問する等、積極的に働きかけをしている。また訪問できなくても電話で連絡する等、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束について理解し取り組んでいる。しかし、安全面に於いて危険と判断されるケースについては、家族に同意を得て夜間等は4点柵を行っている。玄関等の施錠については、夜間以外は、解放している。	勉強会等で、身体拘束に関する職員の理解と意識の共有を行っている。また日中は施錠していない。入居者の外出傾向も把握できており、地域住民の理解も得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員会議等においても注意をしている、また、新聞等でそのようなケースが有ったときにも全職員に対して注意を払い、防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要と思われるケースに対しては家族に対し制度について説明をしている。それに伴い協力出来るところホーム全体で協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明書により説明し家族、入居者本人の不安や、疑問を十分受け入れ話し合い同意得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内にも苦情の担当職員を配置し入居者の意見、不安を充分受け止め、職員会議の場で管理者、職員間で話し合いを持ちサービスに反映している。	入居者からは日常的に、家族からは運営推進会議や来訪時に、意見や要望を聞く機会を設けている。これらの意見をミーティング等で検討し、運営に反映させている。外部の相談機関については、契約時に説明している他、玄関にも掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑内に苦情処理の係を設け家族からの苦情に対応している。また3ヶ月に一度の運営推進会議の場において第三者からの意見を戴き職員会議で職員と話し合いサービスに反映している。	ミーティングや日常の勤務の中で、職員の意見を聞く機会を設けている。また、運営推進会議にも参加し、出された意見を運営に反映させ、サービス向上に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の勤務状況を把握しできる限りの範囲で働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度のペースで必要なケア、疾患に対して勉強会を開催している。また、行政、その他の機関で開催する研修会に出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、必要に応じてホームに訪問し疑問や悩みを話し合いサービスに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を含め職員と方向性について話し合い本人の趣味や得意な事から支援する中でコミュニケーションを計り会話の中からや行動から本人の不安や要望を探り支援に取り入れ安心した生活を送れる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定した段階からこまめに連絡を取り話し合いを行っている。入所してから面会時等に入居者本人の状況をお話し家族が安心できる拝領を心掛けている。要望等についてもその都度話し合い安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族より相談を受けた際は、充分話し合いをし共に解決策を考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と生活の場として家族的に接する中で本人の求めているものや変化を探り支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などの折長時間ではないが入居者と家族の間に入り施設内での出来事や入所前の本人の生活などを話しコミュニケーションをとるようこころがけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ本人の馴染みのものを入所時持参していただいたり、写真を持ち込みをして頂き支援している。	日常の中から入居者のなじみの関係の把握に努め、希望に応じて入居前の知人に手紙を送ったり、行きつけの床屋を利用できるようにする等、関係性が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で申し送りを行い、入居者間の把握を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的に関わりの必要な家族、入居者については、他のサービス事業者とも協力仕合い関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての入居者様について把握し希望や意向に関して職員間で話し合いできる範囲の中で対応している	本人の希望を気軽に伝えられるような雰囲気づくりを心掛けており、また家族からの意向も確認した上で本人本位の対応をしている。また、職員が仲介することで、入居者同士のスムーズな関係作りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用しサービス利用の経過や生活歴等の把握をしていたが、情報の収集に時間がかかることからアセスメントを宮城県版に変更し行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に観察を行い現状の変化については職員間で申し送りを行い総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	マネジメントの様式としてセンター方式を利用して用紙記入時は、家族の方にも参加して頂き介護計画の作成に反映させてきたが、家族の協力を頂けない家族もいる為介護計画の作成に時間を要する事もあり様式を宮城県版にし進めている	職員全員で話し合い、個別・具体的な介護計画を作成している。入居者及び家族の意向を把握しながら、主治医等の意見も含め計画に反映している。毎月の意向確認を行い、必要に応じた計画の変更等、3か月毎に見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアケース記録に記載し特に問題になる部分については別紙を用意し記録し介護計画の見直しに反映させている。職員間においても記録するだけでなく申し送りを行い実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族かの要望に対しては当施設で出来る範囲のなかで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしの中で民生員、地域の理容所等を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な受診については、施設で対応している。受診後に家族に状況説明をしている。また、主治医の往診が月1回定期的に行われている。	かかりつけの医療機関と連携を図りつつ、本人・家族が希望する通院ができるように支援している。また家族による通院の際でも、受診結果の報告を受けて記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が、看護師の資格を有しているの で、その都度状況の変化に対して相談、助言を行い適切な受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、退院までの期間状態の把握と本人精神的ケア、家族との情報交換を兼ね管理者、ケアマネ、チーフが面会に伺い、病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合早期に家族、主治医との話し合いを持ち、その後職員との家族の意向や主治医の考え方について話し合い方針を共有している。	重度化や終末期に関して、個別の対応は行われているが、ホームとしての対応方針の統一及び意思確認書等の作成が行われていない。	重度化及び終末期のあり方については、対応方針が明示されるとともに、意思確認書等文書による確認が求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時をマニュアル化している。また職員会議の場でも勉強会を行い対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、年2回の避難訓練を実地しており、最低1回は消防署の職員立合いのもと実施している。	マニュアルに基づいて避難訓練(夜間想定含む)を年2回実施しており、地域住民(消防団)も参加している。また消防設備の点検および立会い、非常食料や備品の保管も適切に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に対してプライバシー、記録の取り扱いについては、常に指導し入居者様の尊厳を損ねわないケアを心掛けている。	職員は本人を尊重した呼び方、言葉掛けをしており、本人のペースで生活できるよう十分な配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに対しては、納得いくまでお話を聞き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通常の日課については、入居者様の個人希望に添えるように特に職員の業務には、時間ごとの業務を決めずにその日ごとのケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの入居者様は、施設内に訪問していただき散髪を行っているが、中には本人から希望を訴える方もいらっしゃるため、その場合は対応している。また、月2回美容の日を設け外部の美容店に赴きシャンプー等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、時折、野菜の皮を剥いていただく程度のお手伝いをお願いするがほとんどがその日の気分でお断りされることが多い、かたづけに関しては、声かけにて朝食後は行っている。	献立は入居者の希望がかなうよう工夫しており、栄養面では月1回栄養士(職員)が、年1回市の栄養士がチェックしている。また食事は職員が同じものを食べるなど、和やかな雰囲気、サポートしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々に合わせた食事の量の提供している。また、メニューについても行政の栄養士様に相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、うがい等を行っている。また、定期的に居宅管理指導のため、歯科医と衛生士が口腔の清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個人により対応は違うが、排泄の状況を観察し個人個人合った対応をしている。	排泄チェック表を用いて、入居者一人ひとりのパターンを把握し、適切な誘導を行うよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの方が便秘症で有るので食事の提供時も繊維質の食品を多く取り入れている。特に便秘をされる方にはドリンクヨーグルト等を提供するなどして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	すでに、職員が決めた入浴日が入居者様の中で入浴の日や時間が定着している為その日が入浴のタイミングとなっている。	入居者の希望や習慣に応じて、時間や回数等柔軟に対応している。入浴拒否がある方には、言葉掛けやタイミング等誘導の仕方を工夫し、入浴しやすい雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間に合わせてケアしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様個々の服薬内容について把握しており服薬による症状の観察を常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の生活歴や嗜好を踏まえた過ごし方を考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの要望や本人からの要望があった場合対応している。	買い物や散髪等なじみの店や場所に出掛けられるよう支援している。歩行困難な方にも、車イスやリフト車を使用して積極的に戸外で出られるよう配慮している。また特別な外出支援にも柔軟な対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことでトラブルや事故に繋がる恐れのある方以外には、所持して載っている。買い物の希望があった場合は本人と外出し買い物に出かけなどの対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自身から電話を掛けることは無いが、本人宛に来た電話に対しては対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、入居者様に配慮した工夫をしている。	照明や音、温度・湿度等、適切に管理されており、居心地の良い環境が整えられている。また全体的に広めの空間で、季節感を取り入れた装飾が配されており、ゆったりと過ごせるような雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し空間作りに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と話し合い本人の使い慣れた家具や小物を持ち込み出来るだけ不安を軽減できるように工夫している。	家具等のなじみのものを持ち込んで、以前の暮らしに近い環境になるよう家族に働きかけをしている。荷物の少ない方には、飾り付け等で工夫し、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレには、手摺りを設置してある。また、廊下も広く車椅子でもすれ違いが可能な広さを確保してある。		